

## ネヘミヤ記4章1-3節 「御働きの抵抗勢力」

### 1A あざけり

#### 1B 人の弱さと欠如への攻撃

1C 哀れなユダヤ人

2C いけにえを捧げるための修復

3C 一日の仕上げ

4C 焼けてしまった石

#### 2B 祈りによる対抗

#### 3B 民の意気

### 2A 奇襲

#### 1B 一斉攻撃

#### 2B 祈りと見張り

### 3A 落胆

#### 1B 内部を通しての攻撃

1C 「できない」という叫び

2C 疑いと妥協

3C 恐れ

#### 2B 大いなる恐るべき神

#### 3B 工事継続

## 本文

ネヘミヤ記 4 章 1-3 節を読みたいと思います。私たちの聖書通読の学びは、先週ネヘミヤ記 3 章まで来ました。今日は午後礼拝がないので、来週 4 章から 6 章までを一節ずつ学びたいと思います。今朝は、4 章 1-3 節から始めて、4 章全体を眺めてみたいと思います。

1 サヌバラテは私たちが城壁を修復していることを聞くと、怒り、また非常に憤慨して、ユダヤ人たちをあざけった。2 彼はその同胞と、サマリヤの有力者たちの前で言った。「この哀れなユダヤ人たちは、いったい何をしているのか。あれを修復して、いけにえをささげようとするのか。一日で仕上げようとするのか。焼けてしまった石をちりあくたの山から生き返らせようとするのか。」3 彼のそばにいたアモン人トビヤもまた、「彼らの建て直している城壁なら、一匹の狐が上っても、その石垣をくずしてしまうだろう。」と言った。

私たちはネヘミヤ記において、エルサレムの町の城壁の再建の記録を読んでいます。ネヘミヤが、涙をもって神に嘆願した祈りがかなえられ、ペルシヤの王にエルサレムに戻り、その町を再建する許可を得ました。城壁は壊れ、瓦礫となっていました。けれども、彼は代表者たちを集めて、こ

の城壁を建て直し、そしりをもう受けないようにしようと呼びかけました。ネヘミヤの指揮の下、それぞれが任されたところの工事に取りかかり、修復は急ピッチで行われたのです。

しかし、エルサレムの周囲で治めている者たちは、これを由としませませんでした。サマリヤの総督サヌバラテがおり、またヨルダン川の東にあるアモン人トビヤもおり、彼らはネヘミヤがエルサレムに来た時に非常に不機嫌になりました。そしてユダヤ人たちが喜びをもって仕事に取りかかった時、彼らはユダヤ人をさげすみ、「お前たちのしているこのことは何だ。王に反逆しようとしているのか？(2:19)」と言いました。しかし今、このようにして工事ははかどっているのです。それで彼らは、猛烈な勢いでこの働きを阻止しようと、あらゆる手段を使いました。

私たちは、エズラ記において神殿の再建を学びましたが、そこでは神の民の建て直しを見てきました。今、ネヘミヤ記では「神の民の守りと堅め」を見ています。私たちは、イエス・キリストが自分を罪から、死から、将来の神の怒りから救ってくださる、救い主として自分の人生にお迎えした時以来、それを由と思わない勢力がいることを忘れてはいけません。それは、悪魔であり、悪霊どもでもあります。

悪魔は、エデンの園でエバを惑わしてアダムに罪を犯させた時以来、何とかして、神の似姿に造られた人間を滅ぼしたいと願っています。悪魔や悪霊どもを、神話の中にある存在のように考えては決していけません。実在します。悪魔はこの世の神と呼ばれて、この世の制度の中で巧妙に働いています。そして私たちの肉を刺激して、何とかして罪を犯させよう、キリストから引き離そうとします。もし、私たちがまだ新たに生まれておらず、生まれつきのままで生きているのであれば、何ら問題はありません。新たに生まれ、キリストの体、教会の一部にされたから、ちょうどネヘミヤの敵どものように怒り狂っているのです。

### 1A あざけり

それでは、サヌバラテらがどのようにして、城壁再建工事を阻止しようとしたか見てみましょう。そして、その手法はそのまま、私たちが主に従おうとする時に受ける反対勢力の手法でもあります。

### 1B 人の弱さと欠如への攻撃

一つ目は、嘲りです。「ユダヤ人たちをあざけた。」とあります。敵は、嘲りという兵器を使って神に仕える者たちを攻撃します。聖書を見ると、例えば、ペリシテ人ゴリヤテは、少年ダビデが投石袋と杖しか持っていないのを見て、あざけりました。イエス様は、ユダヤ人の裁判を受けた時に、嘲りを受けられました。けれども、逆に言うならば、嘲りを受けるということは、それだけ主がこのことを運んでくださっている、今は、自分は神の御心の中にいるのだということを確認できるのです。

### 1C 哀れなユダヤ人

サヌバラテは、「この哀れなユダヤ人」と言っています。サヌバラテは、その地域の有力者です。

そして新改訳では「サマリヤの有力者」と訳されているところは、実は兵隊のことです。ですから、サマリヤの兵隊どもと一緒に工事現場にまでやって来て、「この哀れなユダヤ人」と呼んでいます。人間的には、そのように確かに見えました。そして今、銀細工人や香料作りや、あらゆる職業の人々が不慣れな工事を行っています。ぎこちなく、惨めに見えたことでしょう。そして帰還しなければ、裕福な生活をしていていたかもしれないけれども、あえてユダヤに戻ってきて不便な生活をしています。しかし、彼らには偉大な神が共におられました。この方は大いなる神、恐るべき方、国々を無きものにされる力と栄光を持った方です。

これが、悪魔が私たちの思いの中に吹き込む偽りです。私たちは、キリストの十字架を受け入れるということは、自分が無力な罪人であることを告白することに他なりません。しかし、自分が無力で、惨めで、貧しいことを悟ったからこそ、キリストの富が私たちに満ちるのです。「兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらん下さい。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。(1コリント 1:26-27)」

しかし悪魔は、その惨めな部分をつけ入ります。弱くされ、愚かにされた部分を執拗に示していきます。「お前は、これだけのことをできる有能な者だったのに、どうしてキリストを信じよたのだ？ 罪人、愚か者と言われて悔しくないのか？ お前には、できることがあるはずだ。さもなければ、自分の実力を教会の愚か者たちに発揮してみせろよ。」などと誘惑します。いかがでしょうか、自分が碎かれ、弱くされたことをそしる声を聞いたことがないでしょうか？ それは、悪魔の囁きです。

### 2C いけにえを捧げるための修復

次にサヌバラテは、「あれを修復して、いけにえをささげようとするのか。」と言っています。その城壁を修復したら、いけにえを捧げる、また祈りなど、霊的なことを行ないます。サマリヤ人の兵隊がいま眺めているわけですが、そんなことのために城壁を作っているのか？とあざ笑っています。これを言い換えるならば、「お前たちは、祈りとか礼拝とか、聖書の学びとか、そんなどうしようもないことに、物理的な時間と労力を費やしているのか？」ということです。

イエス様は、「自分の宝は天にたくわえなさい。そこでは、虫も、さびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。(マタイ 6:20)」と言われました。物質や物理的なものをもって、私たちは御霊に属することに自分を捧げます。日々の生活が祈りによって始まり、みことばを読み、キリストの御霊に満たされて、人々に証しを立て、そして何よりも礼拝によって自分の生活の全てが回っています。それを悪魔は嘲笑うのです。目に見えないものだからこそ永続するのに、目に見えないものためにそんなに時間と労力を費やしていること馬鹿にするのです。

### 3C 一日の仕上げ

そして、サヌバラテはこう言いました。「一日で仕上げようとするのか。」これは皮肉であり、彼ら

は急ピッチで工事をしていますが、途方もない時間がかかりそうで、前進しているのかどうか分からないような状態でした。確かに、見た目にはそうでありました。前進しているのかどうか、分からない状態でした。しかし、6章を見ますと、何とたった52日間で城壁は完成したのです！

神の働きは、小さなところから始まります。地味で、目立たないところから始まります。実に、私たちの心に、神のみことばが入ったところから始まります。それも、情報としてではなく、知識としてではなく、実に自分が動かされ、具体的な行動へと駆り立てられた、心に深く植えつけられた御言葉から始まります。イエス様はそれを、良い土地に落ちた種で例えられました。種は小さくとも、三十倍、六十倍、百倍の実を結ばせるのです。

しかし悪魔は、その小さくとも、大きく成長させてくださる神の細やかな働きかけが、遅々として進まない、効果がないという嘲りをもって攻撃します。そして、キリスト者として生きていくのに、今、自分がしていることがあまりにも小さく見えて、虚しくなるように仕向けます。または、他のキリスト者のしていることがとてつもなく大きな働きで、それを自分もしなければいけないのか、と圧倒されるのです。いいえ、イエス様は「小さなことに忠実でありなさい。」と命じられます。それを大きくされるのは自分ではなく、イエス様ご自身です。

#### 4C 焼けてしまった石

そして「焼けてしまった石をちりあくたの山から生き返らせようとするのか。」と言いました。アモン人トビヤも、「彼らの建て直している城壁なら、一匹の狐が上っても、その石垣をくずしてしまうだろう。」と言いました。焼けてしまった石ですから、脆くなっています。そして、運んできた石もちりあくたの山から持ってきた、つまりそれも脆いということです。だから、軍隊を使わなくても一匹の狐で、この石垣を崩してしまうだろうと嘲っているのです。

火で焼かれた城壁は、かつてのバビロンによって滅ぼされた時のことを思い起こさせます。神の裁きによる火です。罪を犯したことによって、その結末をその石はよく表しています。けれども、そこから今、神の民は回復しようとしています。たとえ火で焼かれても、神はそこから建て直してくださるのです。悪魔は同じように、私たちが罪を犯した後の状態を見て、「お前はもう立ち直れないのだ。」と嘲ります。罪の傷跡を見せて、「お前は元には戻れないのだ。戻れても、またちょっとしたことで罪に帰っていくのだ。」と嘲ります。いいえ、主は強くしてくださいます。たとえ私たちは懲らしめられても、その弱った手と衰えた膝をまっすぐにすることができるのです。ちょうど、リハビリと同じように、神に敢えて仕えるからこそ、その傷ついたところも癒されるのです(ヘブル 12:11-13)。

#### 2B 祈りによる対抗

この嘲りに対して、ネヘミヤはどのように対処したでしょうか？覚えていますか、私は前回、ネヘミヤがすぐれた指導者であり、彼の特質を取り上げました。それは、「祈り」でした。彼は嘲りに対して敵に言い返したのではなく、主に訴え、願ったのです。「4 お聞きください、私たちの神。私

たちは軽蔑されています。彼らのそしりを彼らの頭に返し、彼らが捕囚の地でかすめ奪われるようにしてください。5 彼らの咎を赦すことなく、彼らの罪を御前からぬぐい去らないでください。彼らは建て直す者たちを侮辱したからです。」

かなりすごい祈りですね。実は今朝の交読文の詩篇 69 篇も、同じような敵を呪うような祈りでありました。これは、一見、キリスト者がしてはいけないような祈りにさえ思えます。イエス様は言われました。「しかし、いま聞いているあなたがたに、わたしはこう言います。あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に善を行ないなさい。あなたをのろう者を祝福しなさい。あなたを侮辱する者のために祈りなさい。(ルカ 6:27-28)」なのに、なぜ敵を呪うような祈りを捧げているのか？と思われるかもしれません。これは、言い換えれば「神に復讐を任せる」ということです。自分で復讐するのではなく、自分で裁くのではなく、主に全ての裁きを任せる祈りです。

サヌバラテとトビヤが行っていることは、ネヘミヤやユダヤ人を馬鹿にしていることではなく、神ご自身を冒瀆していることです。神が彼らを裁かれます。私たちに命じられていることは、悪をもって悪に返さず、善を行うことです(ローマ 12:19-21)。

### 3B 民の意気

祈ると神の勝利が与えられます。次をご覧ください。「6 こうして、私たちは城壁を建て直し、城壁はみな、その高さの半分まで継ぎ合わされた。民に働く気があったからである。」ネヘミヤは祈り、そして仕事を続けました。民もネヘミヤの執り成しによって、その嘲りの言葉に心を留めるのではなく、仕事を続行できました。働く気力が衰えませんでした。私たちは、敵の発する言葉を思い巡らし、沈思する強い誘惑を受けます。けれども、主に全てを任せ、そして自分に神から与えられた仕事に戻るのです。

## 2A 奇襲

### 1B 一斉攻撃

しかし敵は執拗です。「7 ところが、サヌバラテ、トビヤ、アラブ人、アモン人、アシュドデ人たちは、エルサレムの城壁の修復がはかどり、割れ目もふさがり始めたことを聞いたとき、非常に怒り、8 彼らはみな共にエルサレムに攻め入り、混乱を起こそうと陰謀を企てた。」サマリヤ人サヌバラテとアモン人トビヤだけでなく、アラブ人も、アシュドデ人も加わっています。サマリヤはエルサレムの北、アモンは東、アラブは南、アシュドデは西です。四方から一気に攻め入ろうと企んでいました。

### 2B 祈りと見張り

しかし、ネヘミヤは再び祈ります。彼は実に、祈り強い人です。彼は自分だけでなく、ユダヤ人の彼らにも祈りに加わらせました。「9 しかし私たちは、私たちの神に祈り、彼らに備えて日夜見張りを置いた。」

祈りました。けれども、彼はすぐに見張りを置きました。彼は、祈りました。けれども祈りつつ、次  
に取るべき行動に移りました。しばしば、私たちは祈りについて誤った考えを持っています。「祈っ  
たのだから、あとは神が行ってくださる。」というものです。祈ると、神は次に何をすべきか示して  
くださることがしばしばあります。その行動を取っていかなければいけません。イエス様は祈る時  
に、「いつも油断せずに祈っていなさい。(ルカ 21:36)」と言われました。祈るだけでなく、祈って目  
を覚ましているのです。見張りながら祈るのです。

### **3A 落胆**

そして次に、敵が手にしている最も強力な武器が出てきます。それは、「落胆」です。「10 そのと  
き、ユダの人々は言った。「荷をになう者の力は衰えているのに、ちりあくたは山をなしている。私  
たちは城壁を築くことはできない。」11 一方、私たちの敵は言った。「彼らの知らないうちに、また  
見ないうちに、彼らの真中にはいり込んで、彼らを殺し、その工事をやめさせよう。」12 そこで、彼  
らの近くに住んでいたユダヤ人たちがやって来て、四方から十回も私たちに言った。「私たちのと  
ころに戻って来てほしい。」

#### **1B 内部を通しての攻撃**

これは、敵は戦わずして内部崩壊するのですから、最も効果的です。自分たちの中で落胆し、恐  
れをなし工事をやめてもらうのが最も楽です。

#### **1C 「できない」という叫び**

ユダヤ人はまず、「私たちには、できない。ちりあくたが山をなしているから。」と言い始めました。  
まさに、サヌバラテが嘲った通りのことを彼らが話しています。覚えていますか、イスラエルの民が  
荒野の旅をしていた時に、ヨシュアとカレブを除いてその世代のものが約束の地に入れなくしたの  
は、この落胆です。「そこには巨大な住民がいるから、私たちは到底勝つことができない。」とい  
うものでした。自分たちにはできない、いや神ができるのです。そして神が共におられるのです。

#### **2C 疑いと妥協**

けれども、なぜこのような落胆が出てきたのでしょうか？6章の最後まで読むと分かりますが、な  
んとトビヤと手紙を交わしていたユダの主だった者たちがかなりたくさんいたとのことです。そして、  
結婚までして、縁戚関係であったのです。主に対する献身において、縁戚関係というのは大  
きな妨げになります。イエス様は、これらの関係、自分の命までも憎まなければ自分の弟子になる  
ことはできないと言われました。二心ができて、主への忠誠が保てなかったのです。

主の働きに対して、内部からこのような妨げの動きが出てきます。その妨げによってその働きの  
一致を壊そうとします。その理由は二つにあります。「不信仰」と「妥協」です。神が共におられるの  
に、自分にはできないと言い聞かせ、そこから退きます。そして、妥協については、自分のことを追  
及したいので、言いがかりをつけたり、批判してみたり、恐れや不安を煽ったり、そのようなことを

して自分自身がしたいことをできる機会を作り出します。「そういうのは、二心のある人で、その歩む道のすべてに安定を欠いた人です。(ヤコブ 1:8)」安定を欠かせて、主の働きの妨げを作ります。

### 3C 恐れ

そして敵が真ん中に入って、彼らを殺そうという企みがあり、それが耳に入ったのか、近くに住んでいたユダヤ人たちは、「私たちのところに来てください！」と叫んでいます。恐れです。恐れは、落胆と並んで敵の与える大きな武器です。そして、恐れは人々の心を蝕み、病原菌のように周囲の人々に感染します。ここで私たちがしなければいけないのは、再び祈りです。

### 2B 大いなる恐るべき神

「13 そこで私は、民をその家族ごとに、城壁のうしろの低い所の、空地に、剣や槍や弓を持たせて配置した。14 私は彼らが恐れているのを見て立ち上がり、おもだった人々や、代表者たち、およびその他の人々に言った。「彼らを恐れてはならない。大いなる恐るべき主を覚え、自分たちの兄弟、息子、娘、妻、また家のために戦いなさい。」

恐れに対して最も効果的な処方箋は何でしょうか？それは、「主への恐れ」です。ネヘミヤは、「彼らを恐れてはならない。大いなる恐るべき主を覚え」なさいと言いました。主が命じられていることを私たちは行うのです。主こそ畏れかしこむべきお方であれば、私たちはその命令を行うことだけに目を留めます。そして主を恐れれば、私たちの心は平安に満たされます。主が共にいてくださり、主が戦ってくださることを確信することができます。「あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。(1ヨハネ 4:4)」  
「神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。(2テモテ 1:7)」

### 3B 工事継続

そして結果を見てください。「15 私たちの敵が、彼らのたくらみは私たちに悟られ、神がそれを打ちこわされたということを聞いたとき、私たちはみな、城壁に帰り、それぞれ自分の工事に戻った。」神が打ち壊してくださいました！これが神の勝利です。そして神のなされている業は止められることは決してありません。「まことに、主が仰せられると、そのようになり、主が命じられると、それは堅く立つ。主は国々のはかりごとを無効にし、国々の民の計画をむなしくされる。主のはかりごとはとこしえに立ち、御心の計画は代々に至る。(詩篇 33:9-11)」